

### 30. 乳幼児から学童期にかけて BMI の経過についての検討：肥満になりやすい脂肪発達の特性はあるか？

小児科学（内分泌）

菅野普子、小嶋恵美、沼田道生、金澤早苗、有阪 治

目的：小児の脂肪発達に遺伝的影響を示唆する特徴的パターン（adiposity rebound の時期）があるかを検討した。

対象・方法：県内 F 町で同時期に出生し、その後 7 歳まですべての検診（計 10 回）を受けている小児 427 名について、年齢経過による BMI の変化を観察した。

結果：7 歳時に BMI が高い集団は 2 歳以降の BMI の減少がなく、4 歳以降急速に BMI が増加することが示された。男女で同じ結果であった。

結論：肥満になりやすい脂肪発達の特性が存在する可能性が示唆された。

### 32. 貧血のある増殖糖尿病網膜症例の硝子体手術の検討

越谷病院眼科

山田 裕一 小林 史樹 筑田 眞

【目的】過去の報告では、貧血を認める増殖糖尿病網膜症例(PDR)の視力予後は必ずしも良好ではない。今回、当科における貧血を認める PDR の硝子体手術の術後成績を検討したので報告する。

【対象、方法】過去 3 年の初回硝子体手術症例のうち、術後 12 ヶ月以上経過観察ができた 83 眼。対象は貧血(+)30 眼、対照は貧血(-)53 眼。貧血(+)は Hb(g/dl)10.2、FBC(/mm<sup>3</sup>)332 万、Ht (%)30.8、HbA1c (%)7.1 で、貧血(-)は、13.7、444 万、39.5、7.7 であった。検討項目は術中術後合併症、平均手術回数、視力予後である。

【結果】平均手術回数は各々 1.6、1.3、術中術後合併症は硝子体出血(VH)が最多で各々 61%、38%であった。2 段階以上視力改善は各々 73%、77%、2 段階以上悪化各々 10%、2%であった。

【結論】合併症は VH が最多で、手術回数はやや多い傾向があった。視力改善度はほぼ同様に良好だが 10%に悪化を認めた。